

第1回会議で出された意見及び対応状況（継続検討分）

項目	意見	対応
戦略の内容や施策への展開に関すること		
施策への展開	・生き物と共存しながら活性化を図るといような方向にできないか。生き物と共存する札幌市、生命あふれる都市のようなもの。	第1章3(1)「理念」及び(3)「目標」において、都市生活と生物多様性との共存や都市の魅力の向上を記載。
	・生き物という観点を都市の中に入れるにはどうするかということを考えていく必要がある。(例えば、屋上緑化においてビオトープを形成するなど)	第2章1(3)「課題」において、市街化区域については、緑地など新たな生物環境を整備することにより生態系の保全を図る必要性を記載。
	・シンボリックな保全・再生の「目標」や「拠点となる活動の場」、「プロジェクト」などが設定できると、市民が参加しやすく、札幌市の生物多様性をイメージしやすくなり、意識の向上の面でも効果が期待できる。 (設定例：札幌を代表する自然や生態系、最も特徴的なもの、保全策がとられていない場所、湿原や森林など生態系のタイプごと、など)	23年度に行った基礎調査では、代表的な生物種や場所の抽出・特定には至らなかった。未だ調査データが充分ではないことから、まずは、第3章1(1)基本戦略1「考える」等に挙げたモニタリングの取組みについて、戦略策定後に市民参加型の具体的プログラムを開発し、市内各地で実践する。シンボリックな生物多様性保全の取組みは今後の展開として捉える。
市域外との関連	・北海道の生物多様性戦略との関連もどこかで謳った方がよい。	今後、条約、法律、北海道の保全計画との関連を整理し、記載する。
	・札幌は札幌だけで孤立しているわけではないので、周辺の隣接市町村との連携の重要性もこの中に入れるとよいと思う。	第1章2「戦略策定の趣旨」において、札幌市域だけでは解決できない取組については、周辺自治体との連携を図ることを記載。また、第1章3(1)「基本認識」1・2、第1章3(3)3「目標」イにおいて市外の生物多様性との関わりにも配慮している。
他分野別計画との連携	・みどりの基本計画など、市内をいろいろな形で分けしている他計画とうまく連携がとれるよう、部門別計画の構成やゾーニング内容、あるいは各計画の生物多様性に関わる記述・連携可能性の有無なども調べておくと、それぞれの計画との連携がやりやすくなると思う。	都市計画、環境基本計画、みどりの基本計画、水環境計画、河川環境指針、都市農業ビジョンについて、「現状と課題の詳細」添付資料 別紙5に整理。
進行管理	・実効性のあるものにしていくためには、どのようにモニタリングしていくか、指標をどういうふうに持っていくか、それを次にどのようにフィードバックするのか、というところの担保が重要になってくると思う。	モニタリング：第3章1(1)基本戦略1「考える」等にモニタリングによる科学的知見の充実を記載。戦略策定後に、市民参加型の具体的プログラムを開発・実践する。 指標：第3章2「進行管理」に記載。
用語	・できるだけ分かりやすい言葉を用いる。また、用語の統一や、必要に応じて定義の確認が必要。	多くの市民・事業者が読みやすく、分かりやすい表現とするよう留意する。